

酒と漢方薬

「酒は百薬の長」と言われるのは、何やら漢方薬や東洋医学の思想に関係ありそうです。薬草を酒につけ薬用酒を作ることから言われるようになり、酒を飲んでいると長生きするということではなく、薬草を酒につけると成分が出やすくなり、より健康に役立つという意味が正しそうです。ところで、漢方と酒のかかわりは意外に多く大切です。「この漢方薬は日本酒で飲んでくださいね」というと信じない方がほとんどです。

有名な八味丸という漢方薬は原典では、酒で飲むことが条件になっています。理由は成分の地黄が胃にもたれやすいのを防ぎ吸収をよくすることとされています。また当归芍薬散は女性の冷え症や生理不順など幅広く使われますが、この薬は酒に混ぜ飲むことになっています。これは薬の効き目を助け、酒の血行の良くなる力を利用すると考えられます。

水の代わりに酒で煎じるものもあります。この他にも、酒がかかわる漢方薬はたくさんありますが、この関係をみますと「酒は百薬の長」というのもわかるような気がいたします。最も、昔の酒の「白酒」というのは立派な漢方薬の原料になっていて、血行を良くして薬の吸収をよくする働きがあると原典にはかいてあります。ただし酒だけでは「百薬の長」ではないことを心してお楽しみください。